

平成29年7月14日(金)

老球の細道342号

藍より青く

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日、会津地区初のプロバスケットボール選手上杉翔君の両親から、彼が所属するBリーグ「信州ブレイブウオリアーズ」の「メモリアルブック」をいただいた。本の中身は選手たちの昨シーズンの活躍を示す個人成績と写真、そしてコメントが掲載されていた。

「2015-16シーズンから信州に在籍。愛嬌のある笑顔が人気。試合では相手選手が嫌がる粘り強いディフェンスと恵まれた体格で日本人フォワードとしてゴール下でも活躍。4月のホーム名古屋戦にて前十字靭帯断裂の大怪我を負い、残りの公式戦は止む無く欠場となるがブースター投票で2016-17シーズンチームMVPを獲得」

指導者の喜びは、教え子が、指導者自身のなしえなかった夢を見事やりきり、指導者を越えることにある。中国の故事に『青は藍より出でて藍より青し』というのがある。

「学は、もって已(や)むべからず。青は藍より出でて藍より青く、氷は、水これを為して、水より寒し」【学問はいつまでも止まるということはないし、弛(ゆる)んでもならない。青がもとの藍よりも青いように、氷がもとの水よりも冷徹のように、師を凌ぐ学の深さを持った弟子も現れるものだ・・・】出典は『荀子』。

青は藍より出でて藍より青しとは、弟子が師匠の学識や技量を越えることのたとえとしてよく使われている。「藍(あい)」とは、染料に使う藍草のことで、藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となる。その関係を弟子と師匠にあてはめて使われている。学問や努力によって持って生まれた資質は越えることができるのである。

また、私は「誠意」を旗印にして日夜励んでいるが、私など足元にも及ばない凄惨な教え子がいる。会津バスケット協会も協賛や宴会などでお世話になっている喜多方のある料理店女将である。律儀で誠実な姿勢は高校時代からさらに磨きがかかった。お客様に対する心配りなどは、コミュニケーションを業とするコーチにもとって学ぶところ大である。この通信を読んで毎回感想をよこす。ある日の通信に対するコメントである。

【お世話になっております。スポーツの世界の話は、普段の生活の中でも同じく通じるものですね。『声を出し合う。苦しい時こそ声を出す』これは日頃常々思っている事です。私事で申し訳ございませんが、私は主人とバイトさんと共に仕事をしております。声を掛け合う事、声を出す事、大事だと思っております。まず一番に雰囲気の良い店を演出するために。元気な welcome の挨拶に始まり(数ある店の中からようこそNを選んで頂き大変感謝しておりますの気持ちを込めて)。お客様に呼ばれた時の返事(はい、お客様喜んで今伺い致しますの気持ちを込めて)。お帰りになるお客様へのお見送りの挨拶(今日はNへお越し頂いた事、心からありがとうございましたの気持ちを込めて)。そして、スタッフのパフォーマンスをそれぞれのポジションでしっかりと発揮するための声の掛け合い。より早く、より美味しい状態でお料理や、飲み物をお客様の元へお届けする。ハッキリとした言葉でオーダーを伝える。そのオーダーに対してのイエスをハッキリと伝える。当たり前的事ばかりで大変恐縮ですが、でもこれが出来てこそ、より良いおもてなしが出来ると思っております。それに声を出していると自分に余裕が持てます。良いことばかりです。私はこれからも、声を出す事に対しては強い拘りを持って生きていきます!】